

保育計画成果報告書

法人名等	医療法人社団明徳会
施設名	十全双葉保育園
報告者（役職）	小畑 真里子（主任）
住所・連絡先	静岡県浜松市浜北区平口 1969-1
	☎ 053-585-4345
	E-mail futaba-k@rx.tnc.ne.jp

○タイトル（保育計画）

双葉のちびっ子探険隊 ～ログアスレでバランス感覚を養おう～

○主な助成備品

丸太、トンネル等

1. 保育計画策定の目的

当園では0～2歳児までの子どもたちが在園しています。

園庭遊びでは幼児用の遊具は遊ぶのになかなか難しく、乳児に合った遊具を充実させたいと思い、運動能力の発達を促す為に現在ある山(約 W450、H50)を活かし、どの歳児でも楽しめ、小さなアスレチックでバランス感覚を養っていきたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

○はじめてログアスレ(階段)

- ・小さな段差を乗り越えられるようになった子や這い這い出来るようになった子が安全に遊べるような段差になっており、大きな運動としては全身を使った移動や平衡を保持する運動であり、その後の発達の基本となる。
- ・手すりをはものを掴む動作の練習になり、手すりを使ってのぼるという連動動作も身につく。



○はじめてログアスレ(手すり付き丸太ステップ)

- ・ねらった場所に足をつけて歩く、連続する段差を上り下りするというように考えながら動くことができる。平衡な手すりをつたいながら、足では段差を進むという少し難しい連動動作が身につく。



○はじめてログアスレ(ジグザグウォーク)

- ・歩きやすい進路に小さな段と切り替えがあり、楽しめる平均台のような遊具。大きな運動の発達段階のなかで、つかまらないでまっすぐ歩く、小さな障害をまたぐ、歩きながら向きを変えろというような少し発展した動作が身につく。また、小さな凸部があることで状況を読み、見極める力を育てる。



○はじめてログアスレ(丸太越え)

- ・幅や高さは安心して使えるものとなっており、立ち上がった状態から腰掛ける。大きく足をあげて、またぐ。丸太の上を歩くなど、発達に応じて遊びを発展させることでバランス感覚を育む。



○トンネル

- ・トンネル開口は高くして、子どもたちの隠れ家や基地になり、好奇心を持たせることにより遊びの可能性を広げる。
- ・トンネル側面に開口を付けることで光が差し込み、怖がらずに入れる。



歳児	【ねらい】	【内容】
☆2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 手をあげる、足を曲げる、腹筋、背筋でバランスを取る等、身体の使い方を知る。 友だち同士で見立て遊びを楽しむ。 	それぞれの遊具遊びが確立できるようになったら、サーキット遊びを取り入れ、皆で考えながら楽しんでいく。
☆1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 「体幹バランス」遊びをして、運動を楽しんだり、能力を高めていく。 	一人歩きが次第にしっかりしてくるようになる1歳児。凸部のあるものや段差のある遊具をあえて取り入れ、バランス等を養っていく。
☆0歳児	<ul style="list-style-type: none"> 這って、歩いて上り下りする経験をさせる。 	階段等上り下りできる遊具に興味を持ってもらうよう保育士も一緒に行うことで歩行運動機能を確立させる。

3. その成果と評価

園庭にアスレチックができたことによって、子どもたちが活発に動き、どの歳児も活用できました。また、遊びへの集中力が身につき、発達段階にあったバランス感覚を養っているのではないかと感じます。丸太越えやジグザグウォークにおいてはバランスをとろうとする姿が見られました。ログアスレチックの置き方を工夫するだけで子どもたちの興味を引き、より楽しんで遊んだり、一人で黙々と丸太に登ったり、落ちてても何度でも挑戦する姿に感動があります。

出来た時に一緒に喜び共有することで満足感と自信に繋がっていただけると感じました。

【2歳児】

初めは一本橋や丸太橋でバランスを崩してよろけてしまう子がいたのですが、7月下旬頃には一本橋の上で立ち上がることが出来たり、横歩きで数歩歩けるようになり、バランス感覚や背筋が鍛えられている様子でした。また、子どもたち自身が段差を楽しんでいて、あえて凸部に乗る姿も見られるようになりました。

山を使っのサーキット遊びは、4月当初行った際は保育士についてくることは出来たが、しばらくすると飽きてしまった為、今後はゲーム性を持たせて、子どもたちだけでもサーキット遊びを楽しめるよう、遊びを広げていきたいです。



【1歳児】

階段や手すり付き丸太ステップは4月当初から人気です。歩き始めた子でも小さな段差である為、手すりを持って上ろうとしたり、それが無理と分かると這い這いで上ります。丸太ステップは切り株を上り下りする為、緊張感があり渡り切ると達成感があり、何度も挑戦します。

丸太越えは2本を平行に置くと一人でも渡れるようになり、1本でも上に上り立つことができるようになった子もいます。そして、介助することで足を交互に出して渡れるようになってきました。



【0歳児】

歩行が出来ない時には興味を示さなかったログアスレでしたが、歩行が出来るようになると興味を示し、階段の上り下りを手すりを持ち、楽しめるようになってきました。

その姿に刺激を受けた他児が次第に興味を示すようになり、這い這いでも階段の上り下りを楽しめるようになりました。下りる時に前から下りようとする児に対し、保育士が後ろ向きで足から下りることを教えました。それにより、危険なく段差を下りることを覚え、ログアスレの階段が良い経験となり、園舎内の階段がスムーズに下りられるようになりました。

階段が出来るとトンネルや丸太越えも興味を示し、遊びが広がり、今では好きなログアスレへ向かい、個々に楽しんでいます。



4. 今後の課題と展望

園庭に遊具を取り入れたことで、子どもたちは“どうやって遊ぼう”と考えながら遊んでいる様子が見られ、活動の幅が増えたのではないかと感じました。

そして、アスレチックのような遊具なので、各歳児の発達段階に応じたバランス感覚を養えていると共にたくさんの“出来た”という喜びも達成出来ているように関わっていきたいと思いました。その為にはさらに一人ひとりの成長に合った遊び方の工夫が必要に感じました。

当園の園児は関連施設の芝生の広場を走ったり、土手を這い上ったり、滑ったり、スロープ・階段を飽きることなく上り下りしています。また、道路の縁石の上や砂利道を歩くことが大好きな子どもたちです。

この度、ログアスレを設置したことにより子どもの年齢に応じた安全で楽しめるコンパクトな遊具となっている為、ちょっとした時間や散歩に出られない日でも園庭で手軽に「体幹バランス」遊びが楽しめます。自由な発想で遊びが発展し、子どもたちの楽しんでいる姿を見られるようになったことは大変嬉しく思っております。

以上